

日本図書館研究会情報組織化  
研究グループ

2008年9月20日

大阪市立浪速人権文化センター

# NACISIS-CATの過去・現在・将来

佐藤 義則 (東北学院大学文学部)



# 概要

- 1985年度から2007年度までに作成されたNACSIS-CATの書誌、所蔵レコード全件を分析し、オンライン共同分担方式による総合目録の展開と共同分担目録の効果について検討した結果に、NACSIS-ILLの現物貸借データの分析結果を加え、NACSIS-CATのこれまでの歩みと現状の課題等について報告する。また、これらの分析結果および国立情報学研究所次世代目録WGの検討経過を踏まえ、今後の目録所在情報サービスの方向性について概観する。



# 目次

## I. NACSIS-CATのこれまでの発展

1. 参加機関数と参加状況
2. 書誌レコード件数、所蔵レコード件数に見られる変化
3. アクセス可能性に関わるレコードの現状
4. ILL現物貸借と総合目録データベース

## II. NACSIS-CATのこれから

1. 現状の認識
2. 具体的対応

# 視 点

- NACSIS-CAT 「書誌共有型のオンライン共同分担目録方式」

- 「目録の作成・維持を各図書館で個別に行うのではなく、オンライン上で共同分担することにより、全体の作業量を軽減し、より高品質な総合目録の構築を目指す」

- 「共同分担目録」の現状および効果の把握

1. NACSIS-CATの発展： 参加機関数と参加の状況
2. 書誌レコード件数、所蔵レコード件数に見られる変化
3. アクセス可能性に関わるレコードの現状
4. ILL現物貸借の効果



# 1. NACSIS-CATの発展： 参加機関数と参加の状況

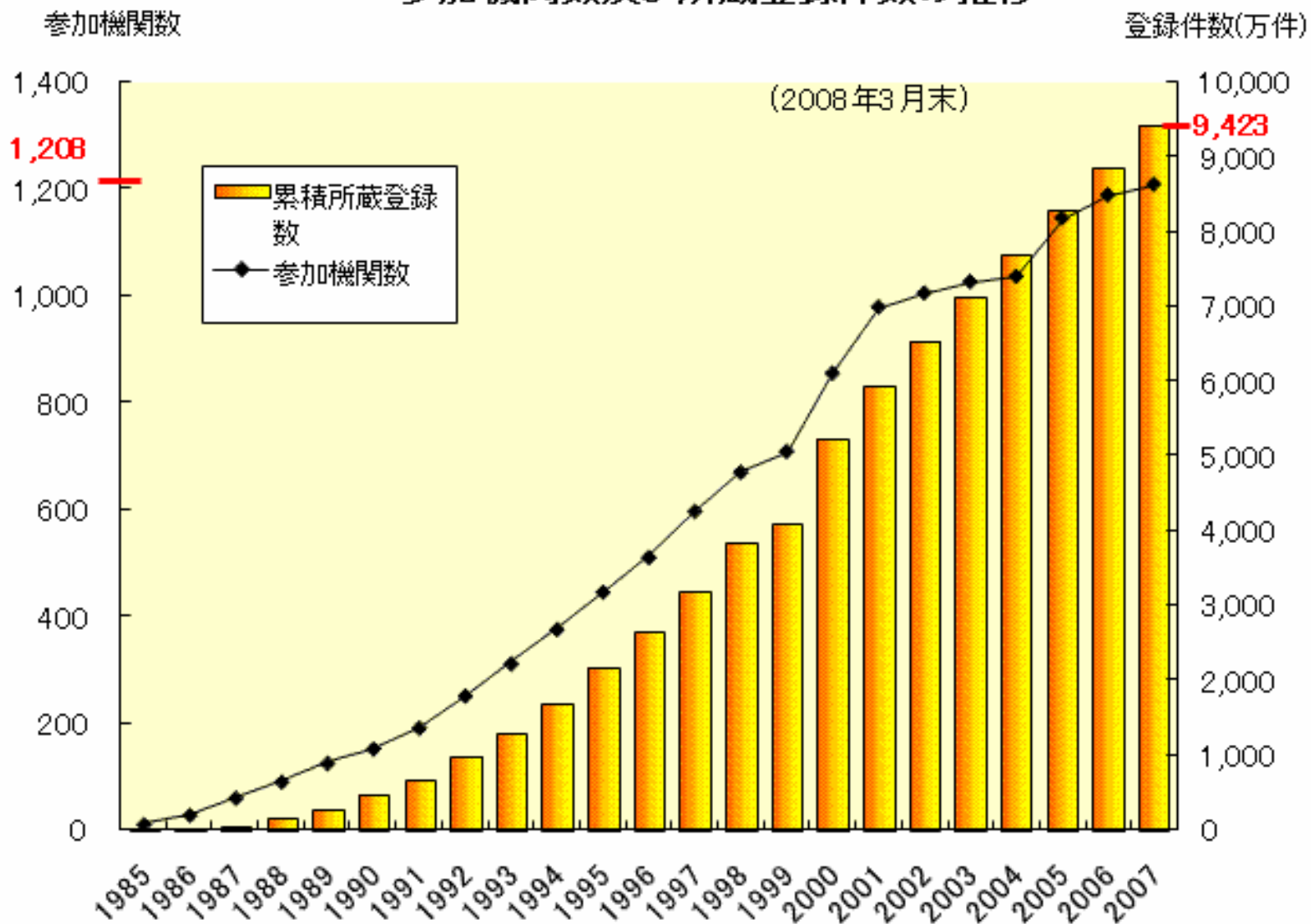


# NACSIS-CATの収録件数

ファイル名		収納合計件数
図書	書誌	8,439,193
	書誌(RECON含)	9,078,595
	所蔵	96,394,895
雑誌	書誌	307,248
	所蔵	4,409,869
著者名典拠		1,481,445
統一書名典拠		28,239
変遷マップ		39,998

2008年9月6日現在

## 参加機関数及び所蔵登録件数の推移



出典：「**NACSIS-CAT 統計情報**」

<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/catstat/transition.html>

# NACISIS-CATの参加機関と 書誌・所蔵レコード数

	機関数	書誌作成件数	書誌作成件数 (機関あたり)	所蔵登録件数	所蔵登録件数 (機関あたり)
国立大学	87	3,744,936	43,045	34,214,242	393,267
公立大学	76	416,166	5,476	6,768,555	89,060
私立大学	520	2,313,276	4,449	41,899,847	80,577
大学共同利用機関	14	123,446	8,818	600,539	42,896
高等専門学校	56	12,049	215	1,072,984	19,160
短期大学	125	58,507	468	2,272,563	18,181
その他	140	391,720	2,798	2,890,024	20,643
総計	1,018	7,060,100	6,935	89,718,754	88,132

※作成機関不明分(1989年以前の登録分) 902,302  
 ※書誌レコード計 7,962,402

レコード件数は2007.6.9 現在

	機関数	学校数*	比率
国立大学	87	87	100%
公立大学	76	89	85%
私立大学	520	580	90%
大学共同利用機関	14	16	88%
高等専門学校	56	64	88%
短期大学	125	434	29%
その他	140		
総計	878	1,270	69%

所蔵登録件数 (機関あたり)	平成16年度末 平均蔵書数	比率
393,267	1,067,895	36.8%
89,060	247,390	36.0%
80,577	303,586	26.5%

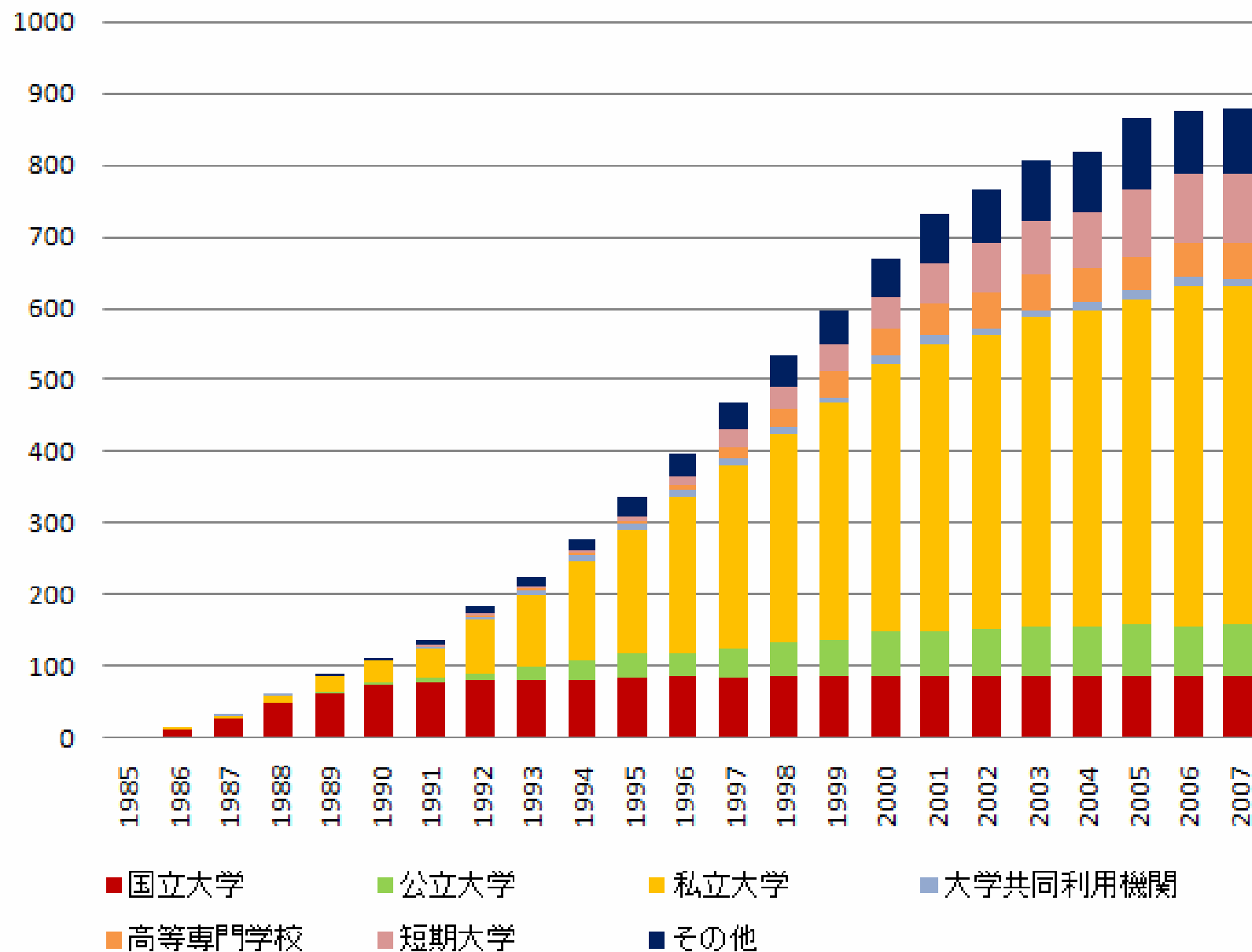
\* 文部科学省『平成19年度学校基本調査速報』(数値は2007.5.1現在)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/001/07073002/index.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/07073002/index.htm)

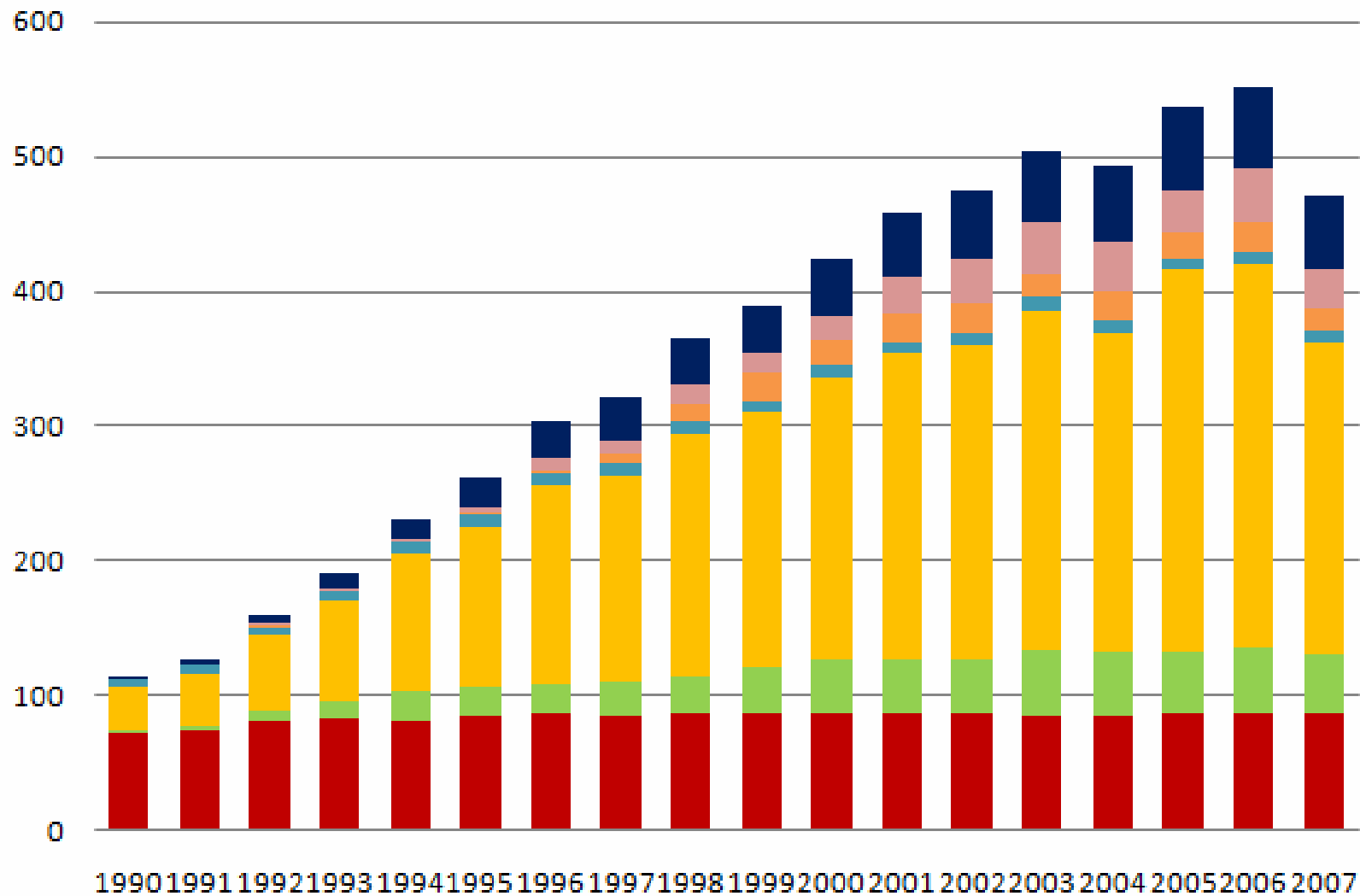


year	書誌登録機関数								計	所蔵登録機関数								計
	国立 大学	公立 大学	私立 大学	大学 共同 利用 機関	高等 専門 学校	短期 大学	その 他	国立 大学		公立 大学	私立 大学	大学 共同 利用 機関	高等 専門 学校	短期 大学	その 他			
1985									2	0	0	0	0	0	0	2		
1986									12	0	3	0	0	0	0	15		
1987									29	0	5	1	0	0	0	35		
1988									49	0	12	2	0	0	0	63		
1989									64	1	21	4	0	0	1	91		
1990	71	2	32	6	0	0	2	113	75	3	30	4	0	0	2	114		
1991	73	4	38	7	0	0	3	125	78	5	41	5	0	1	6	136		
1992	81	7	56	7	1	1	6	159	82	10	73	7	1	2	10	185		
1993	82	13	74	8	1	1	11	190	82	19	99	8	2	2	12	224		
1994	81	22	101	9	0	3	14	230	82	26	140	8	3	4	16	279		
1995	83	23	119	9	1	4	22	261	85	33	174	8	3	7	26	336		
1996	85	23	147	9	3	8	27	302	86	33	219	8	8	12	30	396		
1997	84	26	153	9	7	10	32	321	85	40	257	9	15	25	39	470		
1998	86	27	181	8	14	14	35	365	86	47	292	9	26	32	43	535		
1999	86	34	190	8	21	15	34	388	87	52	329	8	35	40	45	596		
2000	85	41	210	9	18	19	41	423	87	63	372	11	38	46	51	668		
2001	85	41	227	9	21	28	46	457	87	64	399	11	45	58	68	732		
2002	85	41	234	9	21	33	51	474	87	66	411	9	48	69	75	765		
2003	84	49	251	11	18	38	53	504	87	70	429	11	49	77	83	806		
2004	84	48	236	10	22	36	57	493	87	69	440	12	47	78	85	818		
2005	85	46	284	9	19	32	61	536	87	71	456	10	49	93	101	867		
2006	86	49	284	9	22	41	60	551	87	69	476	11	48	97	88	876		
2007	86	43	233	8	16	30	55	471	87	71	473	11	48	99	89	878		

## 年度ごとの所蔵レコード作成機関数

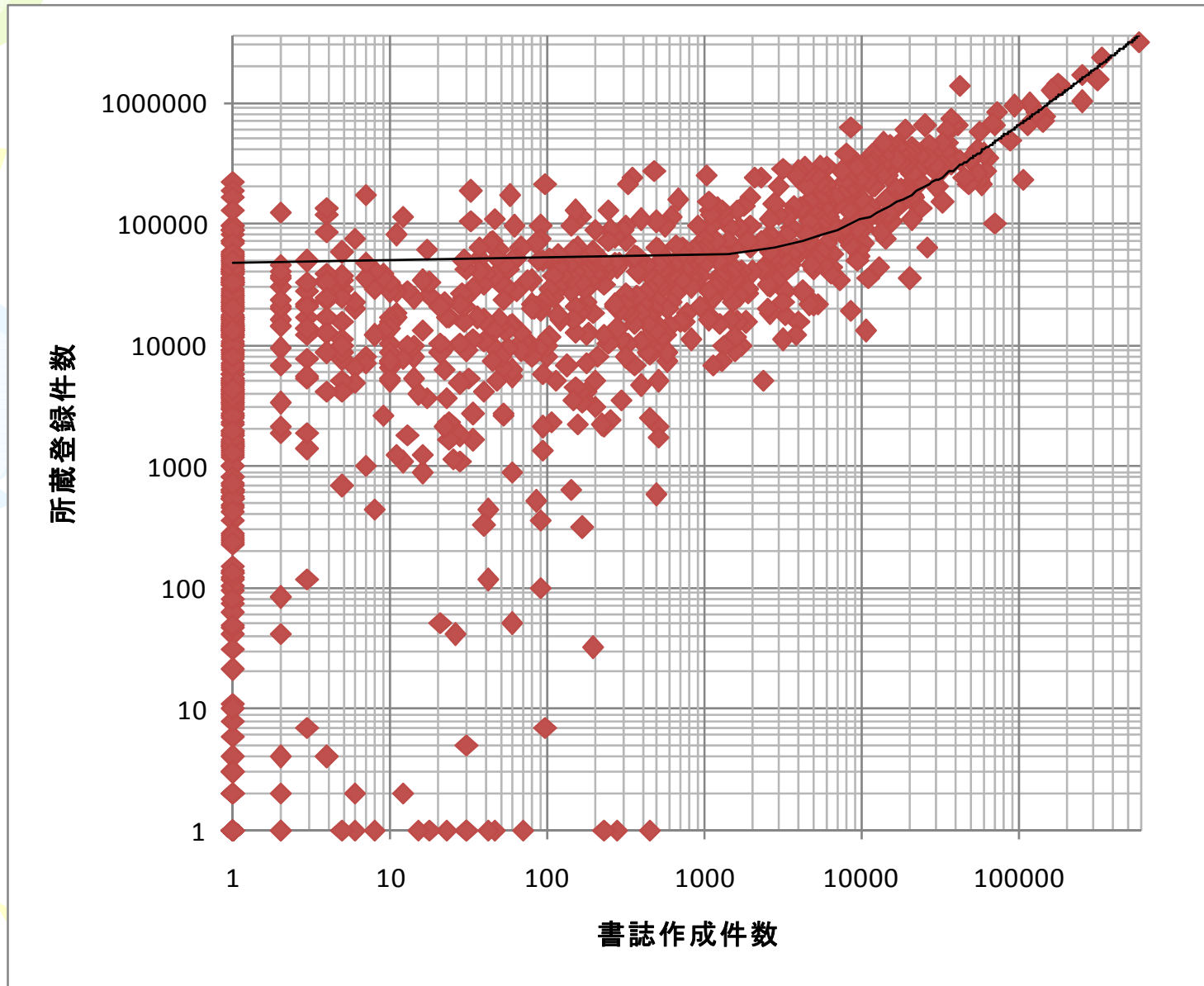


## 年度ごとの書誌レコード作成機関数



- 国立大学
- 公立大学
- 私立大学
- 大学共同利用機関
- 高等専門学校
- 短期大学
- その他

# 機関別書誌/所蔵登録件数の散布図



# 参加館の2極化

## 書誌・所蔵レコード登録の機関

(書誌作成件数の多い方から)

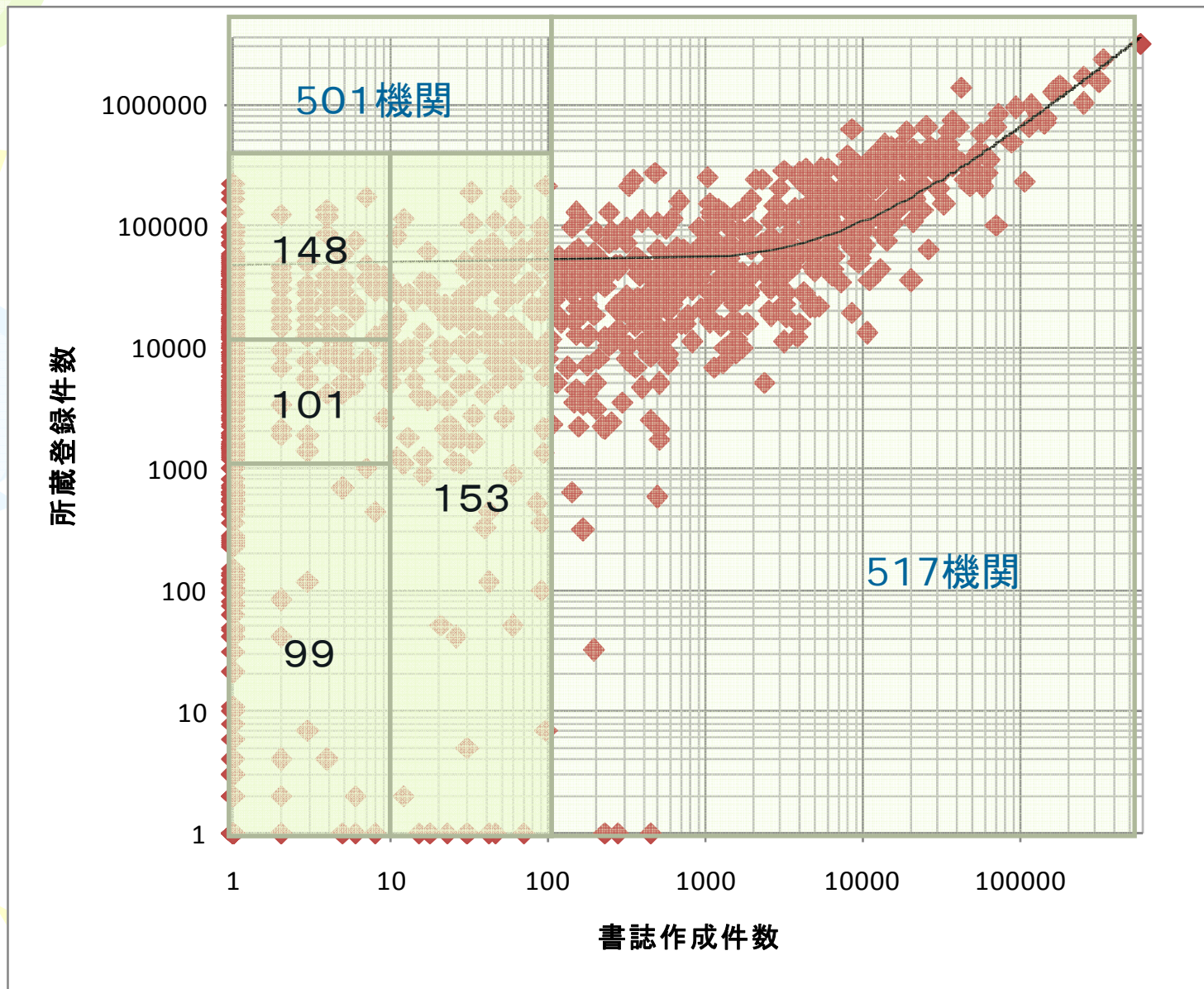
- 20機関 (国立大13, 私立大5, 公立大1, その他1) で、全書誌登録件数の 49.86%
- 200機関で、全書誌登録件数の 94.90%

## 所蔵レコード登録の機関

・ 書誌登録	0件の機関数	197	(19.4%)
・ //	10件以下の //	348	(34.2%)
・ //	100件以下の //	501	(49.2%)

[年度ごとの散布図\(リンク\)](#)

# 機関別書誌/所蔵登録件数の散布図





# 2006年の 書誌/所蔵レコード作成状況

2006	機関数	書誌件数=0の 機関数	書誌件数10件 以下の機関数	書誌登録件数	所蔵登録件数
国立大学	87	1	2	257,901	2,108,992
公立大学	69	21	30	27,983	397,197
私立大学	476	201	278	151,862	3,036,294
大学共同利用機関	11	3	4	8,927	47,658
高等専門学校	48	27	30	2,976	102,969
短期大学	97	57	75	4,815	236,225
その他	88	31	48	40,435	252,519
総計	876	341	467	494,899	6,181,854



# 参加館の2極化

- 規模の拡大と安定的成長の副産物(?)
    - システムが成長し安定したがゆえに、専ら所蔵登録のみを行う機関が存在し得るように、
    - 一定の範囲に止まるのであれば、必ずしも問題にはあたらない
  - しかし、かなりアンバランスな状況が出現していることは確かであるので、目録登録処理の状況について、幾つかのタイプの図書館におけるケーススタディなど詳細な分析が必要
- 
- 





# CATの2極化現象

- 理念としての「資源共有」
  - 共有による資源利用(効率、効果)の最大化
  - 当初からの理念?
    - しかし、記録(書かれたもの)は見つからない
  - いわゆる「公共財」または「クラブ財」としての書誌情報共有
    - フリーライダー問題は不可避の制度的課題
- 持てる者は(持たざる者を含む)コミュニティ全体に奉仕すべきか?
  - 資源共有というよりも、「ひとつの図書館」あるいは「図書館共同体」論なのでは？



# 状況的解釈

- 設立時点では、大きな費用を要し、単独ではなし得ないシステムを構築することが最大の目標
- サービス開始時期においては、制度の(理論的)整備よりも、参加館数の増大＝システム存立の基盤の確保が優先
- 「公共財」としてのシステムの整備
  - しかし、共有という行為自体は本来、「クラブ財」的性格
- インターネットの発展／普及、コンピュータの低価格化 ⇒ 書誌情報の流通可能性の増大
  - 参加が容易に、参加館数の増大
    - “一定の条件”(ハードル)の低下
      - » ローカルシステム、回線契約、通信料、
  - 代替可能性(選択肢)の増大
    - (参加館レベルでは)営利企業(入力代行業者)の参入(が可能に)、
    - システムの「クラブ財」的性格の希薄化？



## 参考： 国際展開

- 「海外の日本研究機関で所蔵する日本語資料の組織化に寄与することを目的」

- 柿本幸治『学術情報センターにおける事業の国際展開』

- <http://www.nii.ac.jp/publications/kaken/HTML1999/99Kakim-J.html>

- 英国のパイロットプロジェクト 1991.3～1995.3

- 欧州日本情報専門家協会(EAJRS:European Association of Japanese Resource Specialists)の設立会合(1989.10)が発端

- 参考： 松江万里子『EAJRS回顧と展望：今後への指標として』

- <http://current.ndl.go.jp/ca1463>



## 2. 書誌レコード件数、所蔵レコード件数に見られる変化

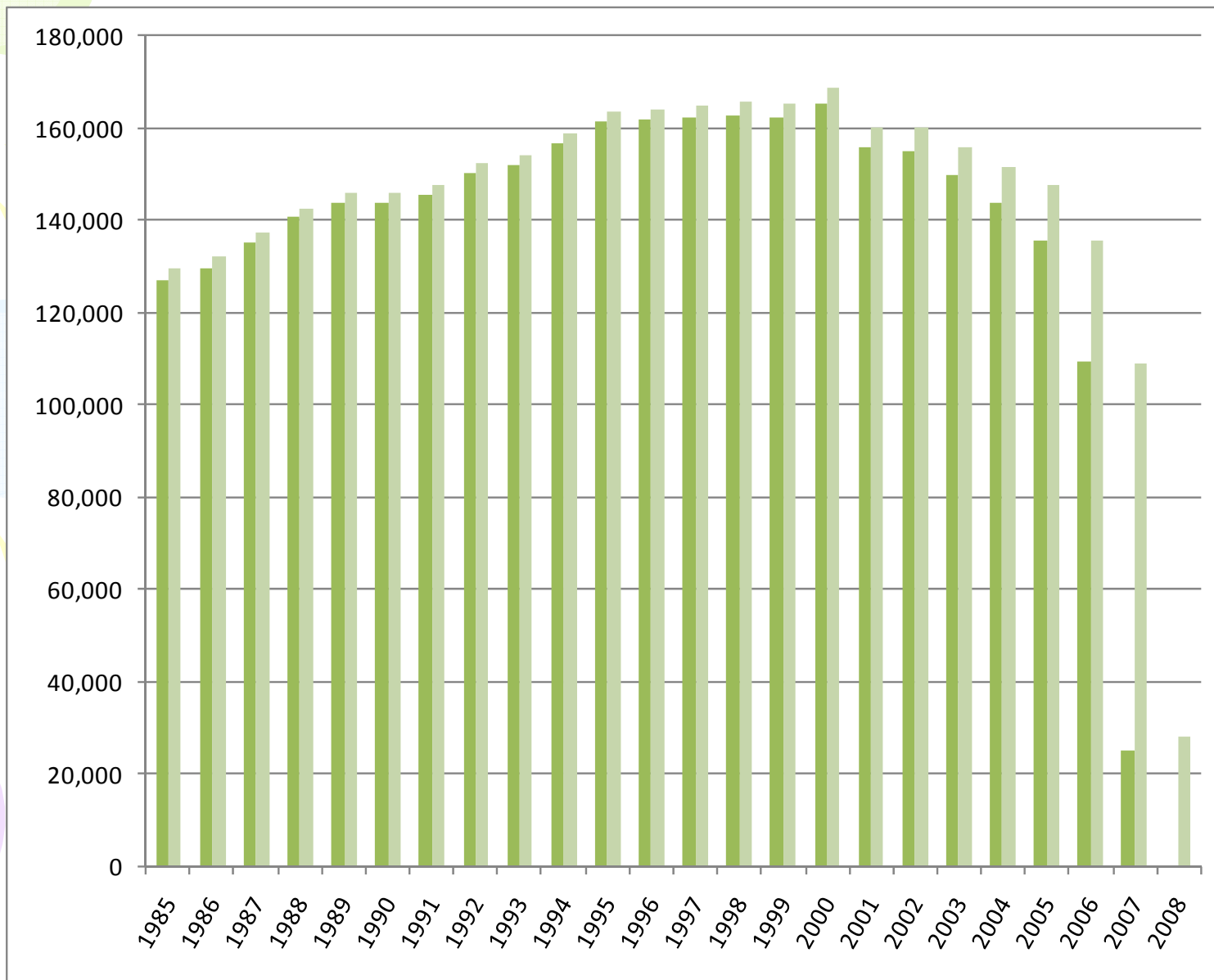
# 出版年別の書誌レコード件数

1985	1986	1987	1988	1989	1990
129,551	132,073	137,507	142,714	145,850	145,849
1991	1992	1993	1994	1995	1996
147,535	152,236	154,148	158,915	163,693	164,244
1997	1998	1999	2000	2001	2002
164,739	165,850	165,566	168,873	160,048	160,163
2003	2004	2005	2006	2007	2008
155,940	151,653	147,878	135,666	108,904	28,175

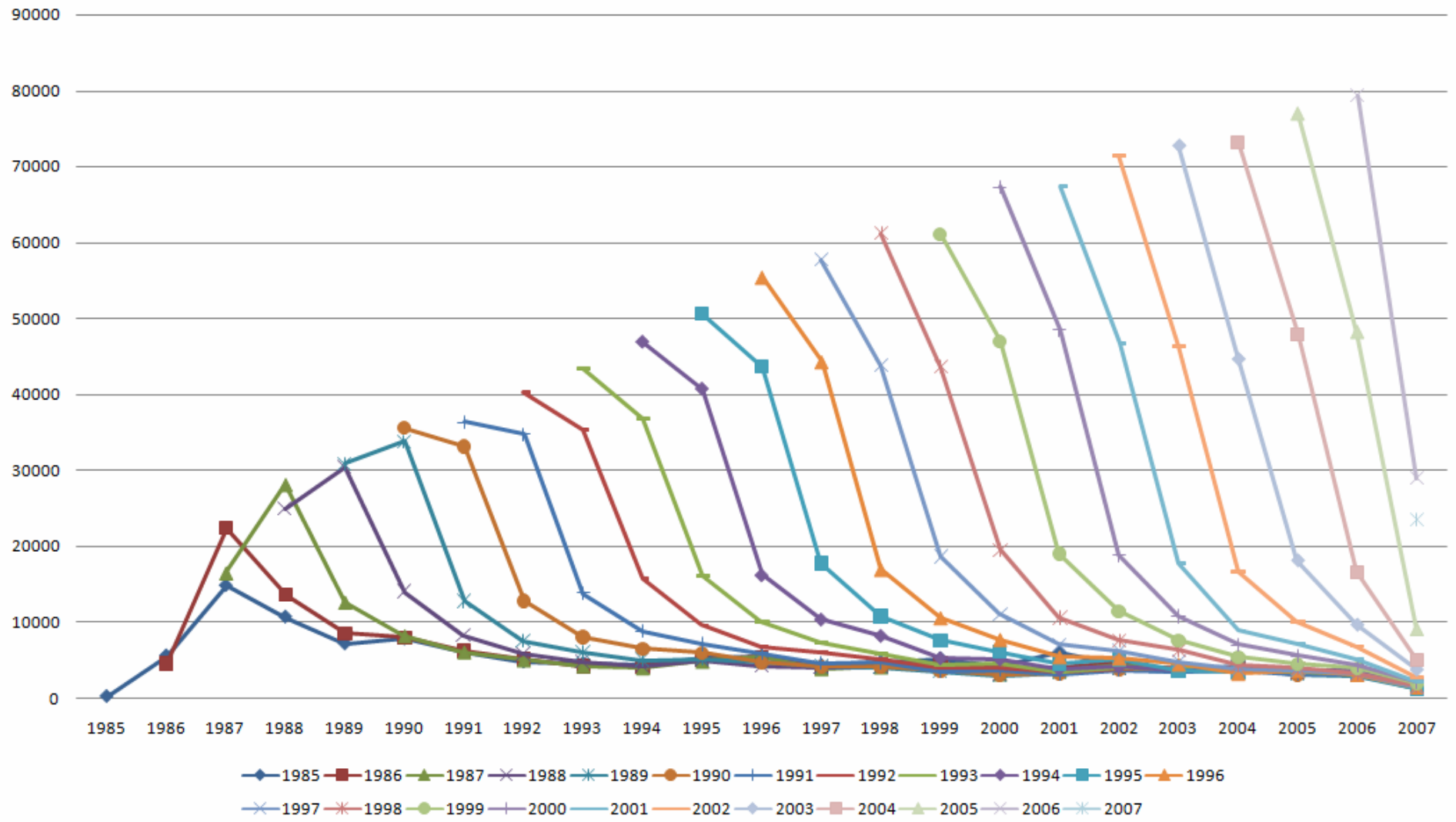
※2008年6月上旬のデータ

※出版年(YR1)が明確にセットされているレコードだけをカウント

# 出版年別の書誌レコード件数



出版年ごと、作成年ごとの書誌レコード登録件数



からだの地図帳 / 講談社編 ; 高橋長雄監修・解説<カラダ ノ チズチヨウ>.  
-- (BN03935325)  
東京 : 講談社, 1989.9

1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
4	30	4	8	13	25	39	32	32	34	27

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
27	37	40	32	39	40	28	10

198911	198912	199001	199002	199003	199004	199005	199006
1	3	2	5	4	6	2	4



知の技法：東京大学教養学部「基礎演習」テキスト / 小林康夫, 船曳建夫編  
<チノギホウ：トウキョウダイガクキョウヨウガクブキソエンシュウ  
テキスト>. -- (BN10574759)  
東京：東京大学出版会, 1994.4

1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
253	84	46	32	30	40	46	42	31	28	20	35	16	12

199404	199405	199406	199407	199408	199409	199410	199411	199412
3	40	53	39	30	29	30	17	12

希望格差社会：「負け組」の絶望感が日本を引き裂く / 山田昌弘著<キボウ  
カクサ シャカイ：マケグミ ノ ゼツボウカン ガ ニホン オヒキサク>. --  
(BA69521933)

東京：筑摩書房, 2004.11

2004	2005	2006	2007
30	367	89	15

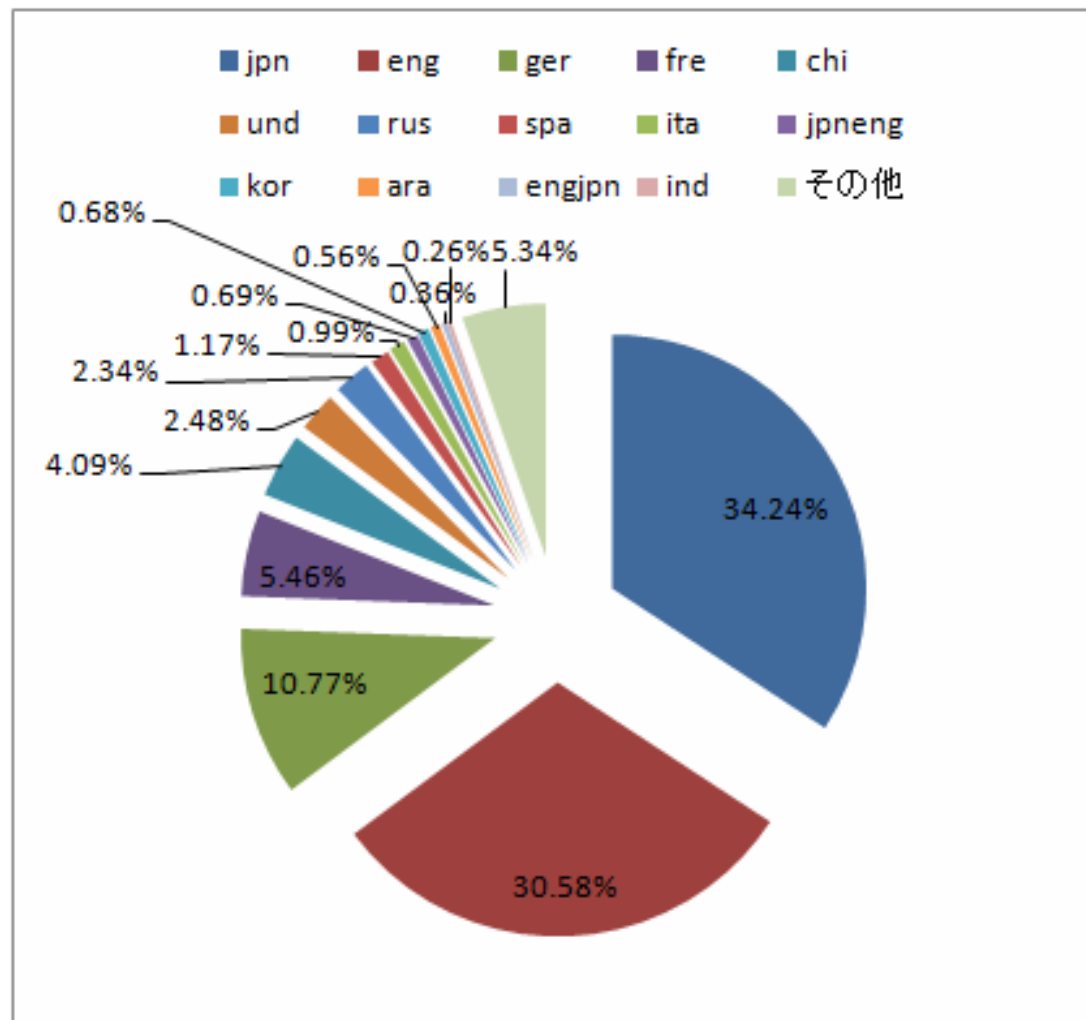
200411	200412	200501	200502	200503	200504	200505	200506	200507
5	24	93	73	35	37	26	27	12

# 登録年ごとの書誌レコードと 所蔵レコードの件数

登録年	書誌レコード		所蔵レコード		所蔵／書誌の比率	
	件数	対前年比	件数	対前年比	比率	対前年比
1985	1,234		857		0.69	
1986	32,231	2612%	28,750	3355%	0.89	128%
1987	172,058	534%	258,913	901%	1.50	169%
1988	226,606	132%	595,663	230%	2.63	175%
1989	222,921	98%	912,595	153%	4.09	156%
1990	293,028	131%	1,545,233	169%	5.27	129%
1991	286,492	98%	1,744,304	113%	6.09	115%
1992	303,146	106%	2,228,494	128%	7.35	121%
1993	326,560	108%	2,814,108	126%	8.62	117%
1994	322,662	99%	3,617,810	129%	11.21	130%
1995	367,296	114%	4,308,549	119%	11.73	105%
1996	383,322	104%	4,767,462	111%	12.44	106%
1997	437,589	114%	5,096,510	107%	11.65	94%
1998	440,997	101%	5,860,946	115%	13.29	114%
1999	453,347	103%	6,308,507	108%	13.92	105%
2000	452,544	100%	7,293,386	116%	16.12	116%
2001	449,980	99%	7,021,729	96%	15.60	97%
2002	467,751	104%	6,647,198	95%	14.21	91%
2003	460,820	99%	6,357,778	96%	13.80	97%
2004	495,305	107%	6,273,526	99%	12.67	92%
2005	464,611	94%	6,194,029	99%	13.33	105%
2006	494,207	106%	6,156,707	99%	12.46	93%
2007	427,511	87%	6,101,439	99%	14.27	115%

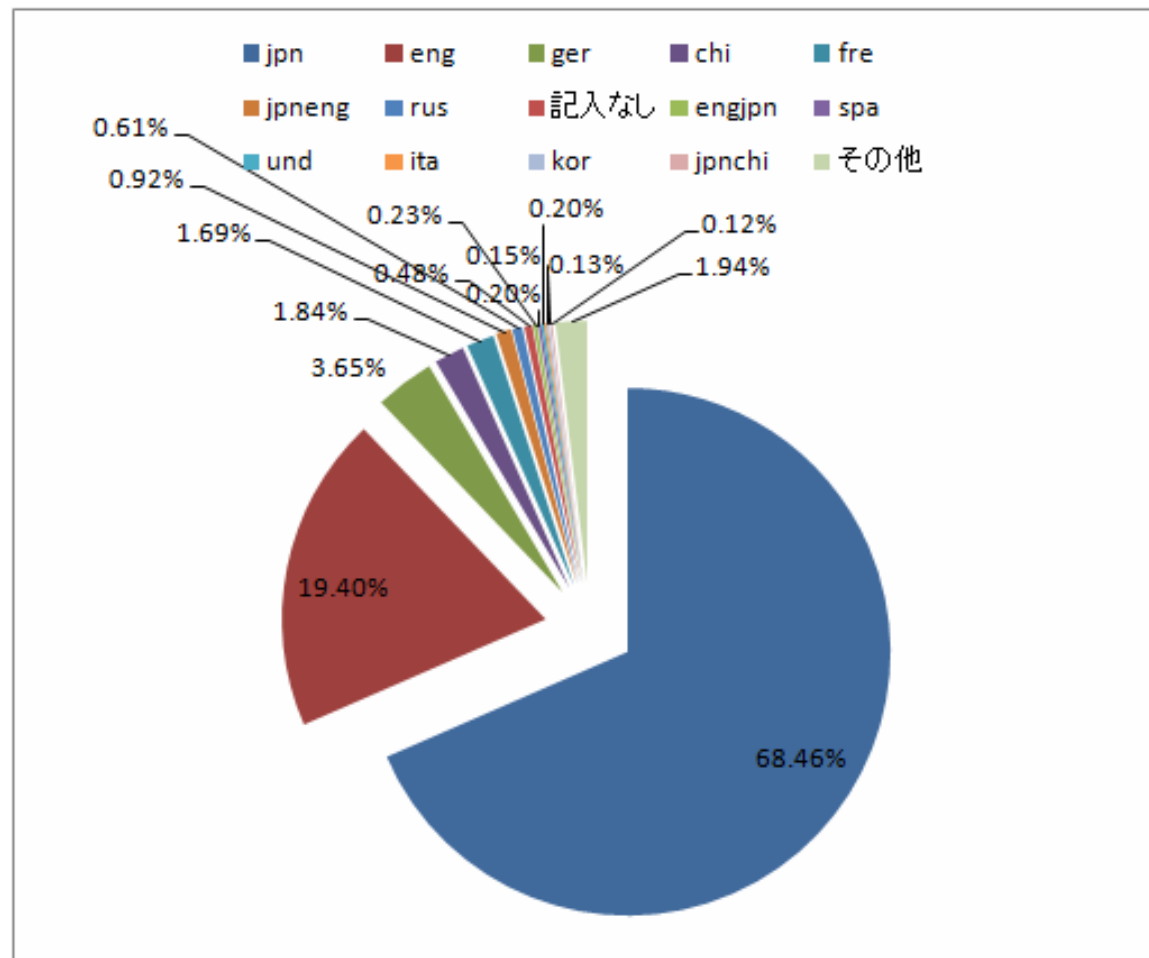
# 書誌レコードの言語別比率

1	jpn	2,673,920	34.2%
2	eng	2,387,972	30.6%
3	ger	841,388	10.8%
4	fre	426,594	5.5%
5	chi	319,171	4.1%
6	und	193,746	2.5%
7	rus	182,380	2.3%
8	spa	91,675	1.2%
9	ita	77,027	1.0%
10	jpneng	53,745	0.7%
11	kor	53,310	0.7%
12	ara	43,712	0.6%
13	engjpn	27,831	0.4%
14	ind	20,159	0.3%
	その他	416,726	5.3%
		7,809,356	100.0%



# 所蔵レコードの言語別比率

1	jpn	61,408,315	68.5%
2	eng	17,402,000	19.4%
3	ger	3,277,862	3.7%
4	chi	1,647,902	1.8%
5	fre	1,512,376	1.7%
6	jpneng	824,846	0.9%
7	rus	542,924	0.6%
8	記入なし	426,465	0.5%
9	engjpn	203,969	0.2%
10	spa	179,839	0.2%
11	und	175,447	0.2%
12	ita	131,734	0.1%
13	kor	120,692	0.1%
14	jpnchi	111,194	0.1%
	その他	1,736,526	1.9%
		89,702,091	100.0%



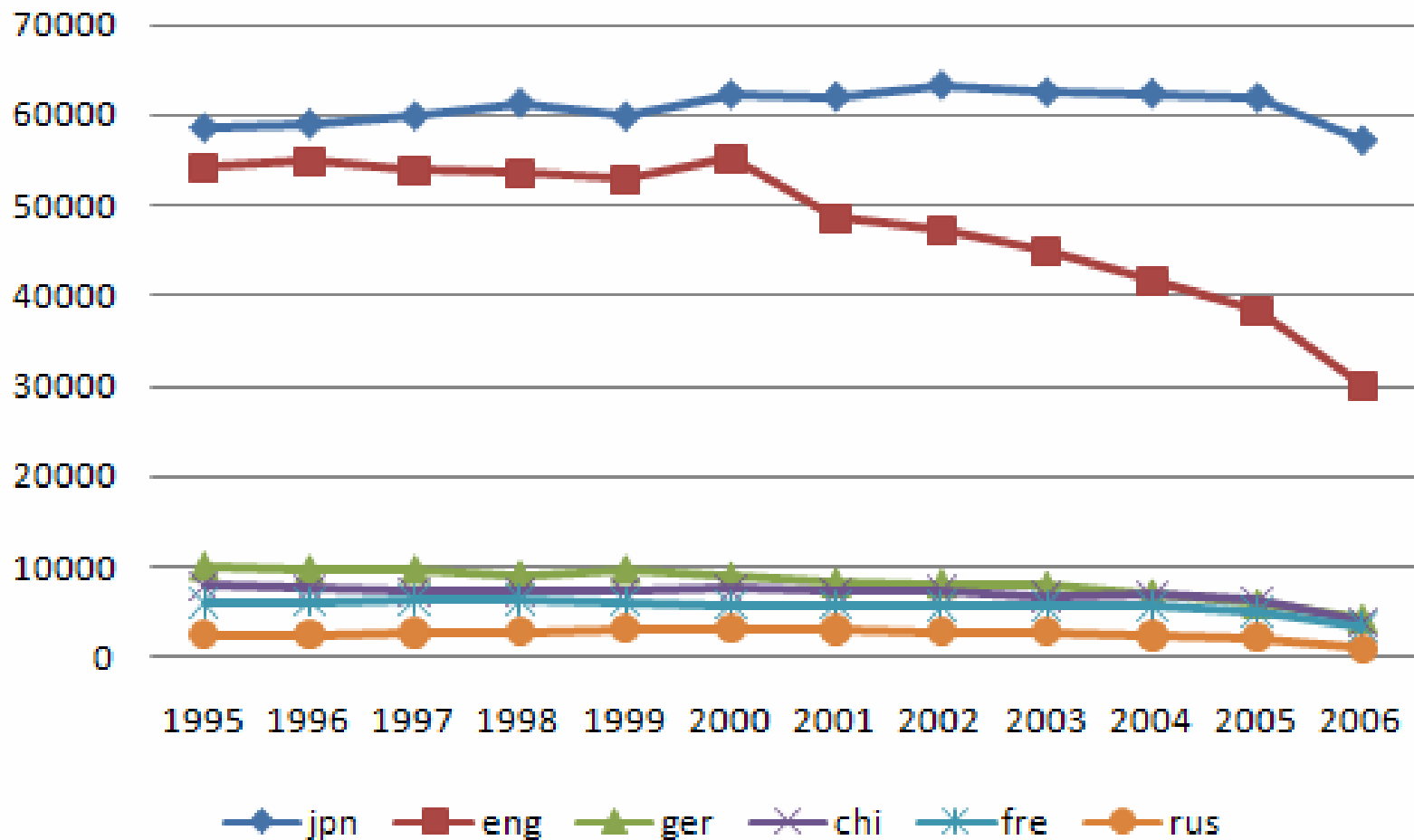
# コピーカタロギングの比率

	書誌 レコード数	異なり親書誌 レコード数	所蔵 レコード数	コピーカタロギ ングの率
jpn	2,673,920	116,091	61,408,315	95.83%
eng	2,387,972	111,244	17,402,000	86.92%
ger	841,388	51,736	3,277,862	75.91%
fre	426,594	33,179	1,512,376	73.99%
chi	319,171	23,638	1,647,902	82.07%
rus	182,380	10,873	542,924	68.41%
spa	91,675	11,496	179,839	55.42%
ita	77,027	11,170	131,734	50.01%
jpneng	53,745	3,135	824,846	93.86%
kor	53,310	4,825	120,692	59.83%
全体	7,809,356	389,385	89,702,091	91.73%

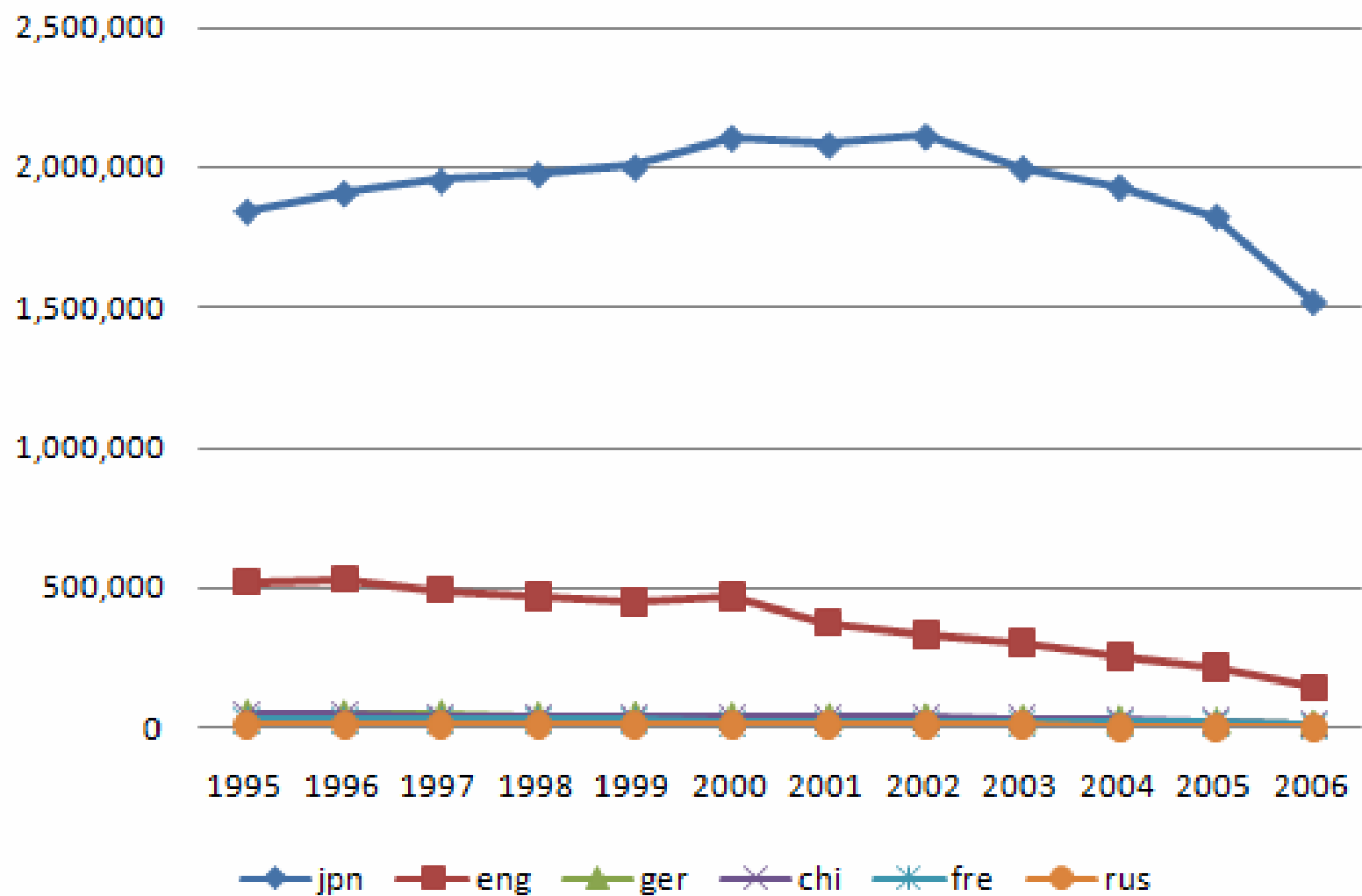
※コピーカタロギングの比率

= (所蔵レコード数 - (書誌レコード数 - 異なり親書誌レコード数)) / 所蔵レコード数

## 出版年ごとの言語別書誌レコード件数

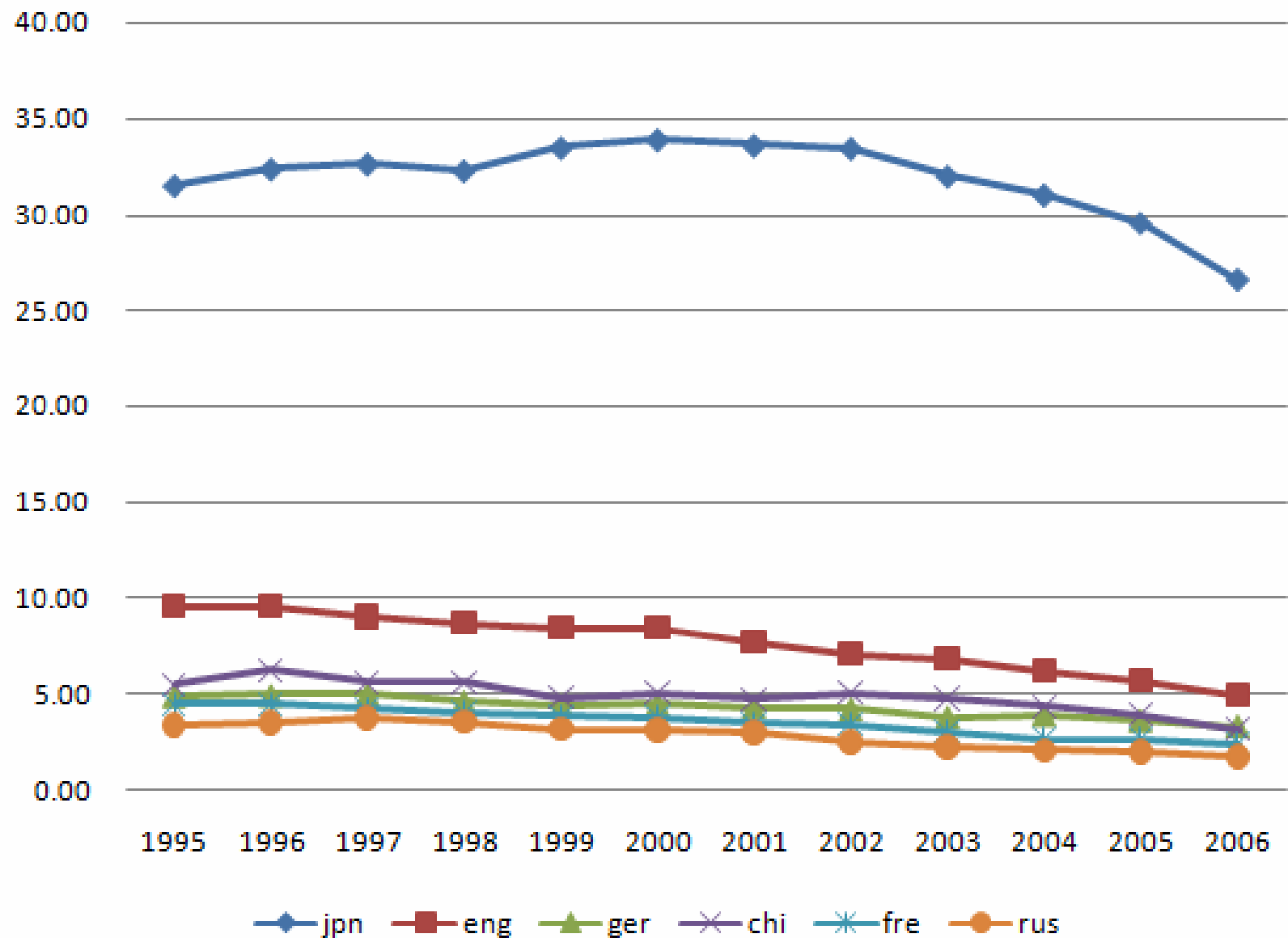


## 出版年ごとの言語別所蔵レコード件数

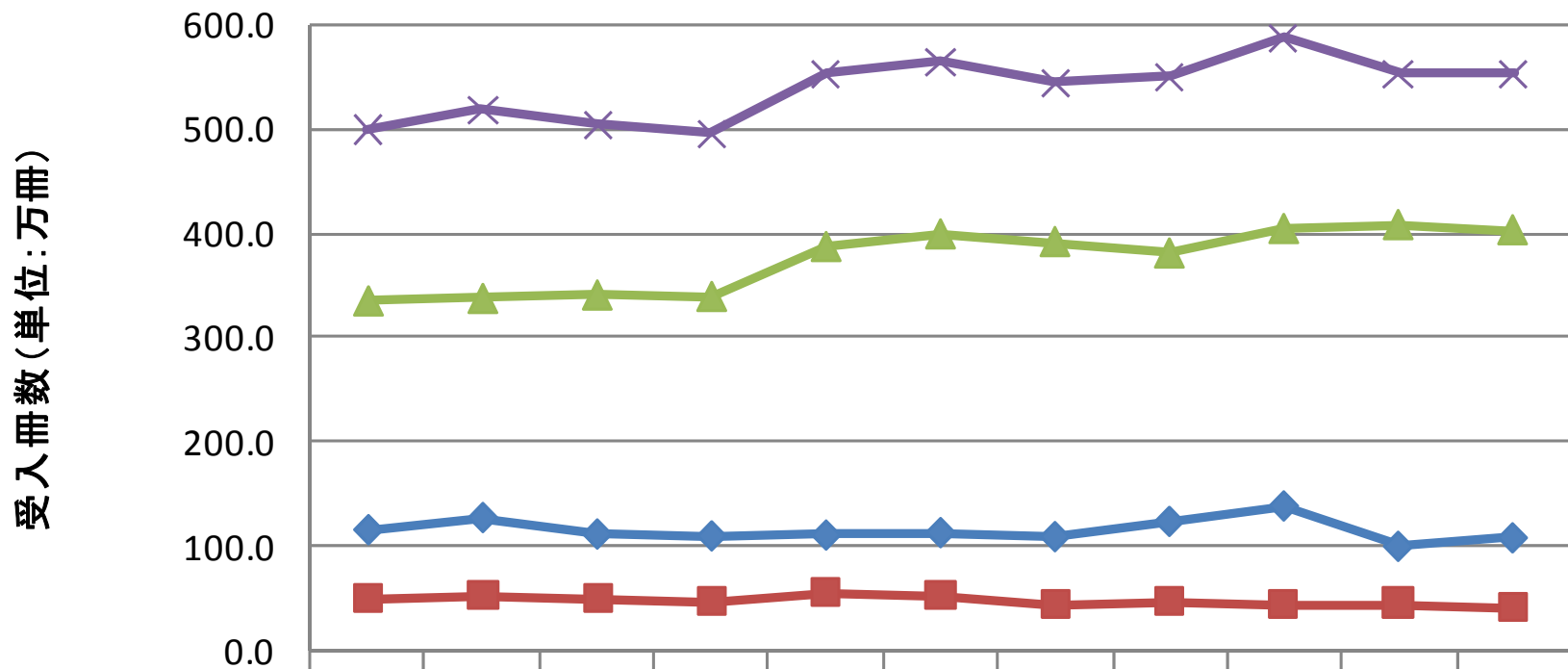




## 出版年ごとの1書誌あたりの所蔵レコード数



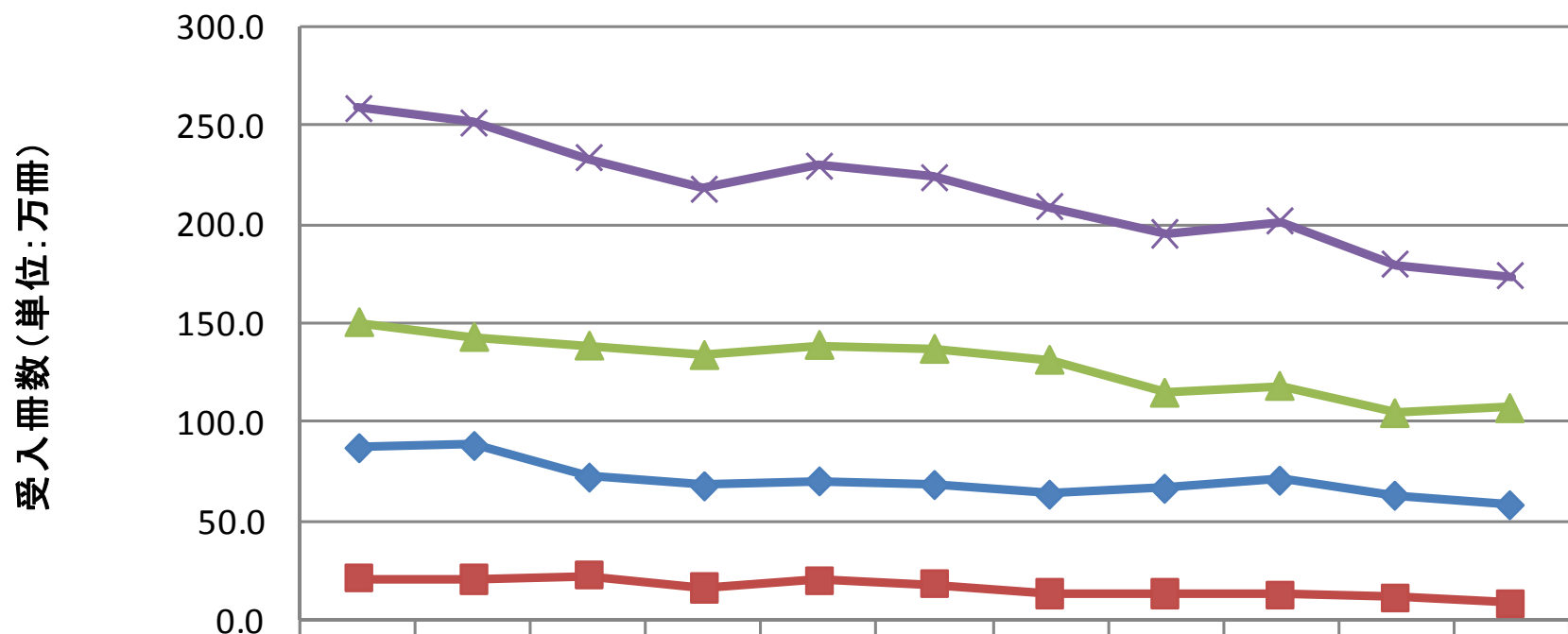
# 全国大学図書館の図書受入冊数(和)



	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
◆ 国立大・和	115.7	127.1	111.6	109.8	110.7	113.0	109.1	123.4	138.0	100.0	108.1
■ 公立大・和	48.6	52.9	50.7	46.2	55.2	51.8	44.0	45.7	44.4	45.1	41.0
▲ 私立大・和	335.5	337.9	341.1	339.7	386.8	398.7	391.5	380.7	403.8	407.5	402.6
× 全体・和	499.7	517.8	503.4	495.8	552.7	563.5	544.6	549.8	586.2	552.6	551.7

出典:『大学図書館実態調査(学術情報基盤実態調査)』

# 全国大学図書館の図書受入冊数(洋)


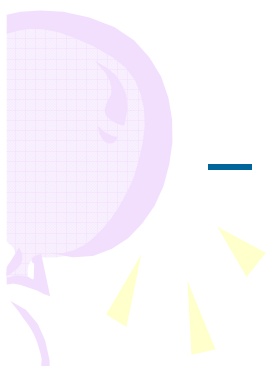


	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
◆ 国立大・洋	86.9	88.0	72.2	67.8	70.3	68.5	63.6	66.6	70.6	63.1	58.3
■ 公立大・洋	21.0	20.6	22.3	15.8	20.0	18.1	13.1	13.1	12.3	11.3	8.2
▲ 私立大・洋	150.3	142.8	138.5	133.7	138.8	136.8	131.3	114.8	118.2	104.5	107.1
× 全体・洋	258.1	251.4	233.0	217.3	229.1	223.4	208.1	194.5	201.2	179.0	173.6

出典：『大学図書館実態調査(学術情報基盤実態調査)』



# NACSIS-CATの3段階

- 第1期[立ち上がり期](1985-1990)
    - 書誌登録件数は、出版年の翌年にピーク
    - 100機関に満たない参加機関の規模では、オンライン共同目録の効果が十分には発揮されなかった
  - 第2期[安定成長期](1991-2000)
    - 出版された年の書誌登録件数の比率が徐々に増大
    - 書誌件数、所蔵/書誌の比率とも順調に上昇
- 
- 



# NACSIS-CATの3段階

- 第3期[停滞期](2001-)

- 書誌登録の時期はより早めに

- しかし、

- 書誌レコード数の減少
- 所蔵／書誌の比率(1書誌あたりの所蔵レコード数)の低下(減少)

- この原因は、

- 参加機関における図書購入の減少(特に洋書)
- 参加機関における目録登録の減少?
  - 目録登録対象の選別?
  - 図書館を介さない購入?



# まとめ

- 近年、NACSIS-CAT(および大学図書館の蔵書)は「停滞期」に陥っている
  - 参加機関の2極化
  - 所蔵登録(洋図書)の減少
- 『資源共有』の観点からは、全国規模で一定の利用可能な書誌数を確保することが重要
- したがって、目録登録および図書受入の状況について、詳細な分析(幾つかのタイプの図書館におけるケーススタディを含め)が緊急に必要である ⇒ 調査実施中



### 3. アクセス可能性に関わる レコードの現状

# 書誌レコード間のリンク

## 全体

書誌レコード件数	8,361,874	
PTBLリンクがある書誌レコード	3,110,272	37.20%
リンク先の書誌レコード数	404,549	4.84%
所蔵レコード件数	95,316,698	
所蔵レコードが付いている書誌レコード	7,984,206	

1書誌あたりの所蔵レコード数	11.40
所蔵レコードが付いている書誌レコードあたり	11.94

## 1995年以降の出版年に対応するレコード

書誌レコード件数	2,047,696	
PTBLリンクがある書誌レコード	890,943	43.51%
リンク先の書誌レコード数	135,146	6.60%



# 著者名典拠リンクの現状

## 全体

ALIDあり	5,567,816	0.67	←ALリンクレコードの比率
AL総数	7,754,712	1.39	←1レコードあたりのAL個数
AL種類数	1,437,963	5.39	←1ALレコードあたりのリンク数(平均)

## 1995年以降

ALIDあり	1,438,397	0.70	←ALリンクレコードの比率
AL総数	2,109,219	1.47	←1レコードあたりのAL個数
AL種類数	634,249	3.33	←1ALレコードあたりのリンク数(平均)

## 全体

ALIDありのレコードで、TXTLが存在するもの	5,498,009	
うちjpn	2,056,226	37.40%
jpn以外	3,441,783	62.60%
うちjpnで始まるもの	2,118,357	38.53%
jpnで始まるもの以外	3,379,652	61.47%
うちjpnが入っているもの	2,151,771	39.14%
jpnが入っているもの以外	3,346,238	60.86%

# 件名の付与状況

## 全体

SHあり	3,940,135	47.12%
SHフィールド数	7,861,914	
LCSH	4,858,346	61.80%
NDLSH	1,446,691	18.40%
BSH	834,401	10.61%
FREE	268,761	3.42%
MESH	205,512	2.61%
PRECIS	75,319	0.96%

## 1995年以降

SHあり	1,230,693	60.10%
SHフィールド数	2,740,665	
LCSH	1,552,498	56.65%
BSH	636,228	23.21%
NDLSH	304,283	11.10%
FREE	88,629	3.23%
MESH	80,478	2.94%

# 分類の付与状況

## 全体

CLSあり	4,307,908	51.52%
CLSフィールド数	7,718,171	
LCC	2,013,285	26.09%
NDC8	1,481,753	19.20%
NDLC	931,649	12.07%
NDC9	738,742	9.57%
DC	517,230	6.70%
DC19	474,594	6.15%
NDC6	465,923	6.04%
DC20	386,977	5.01%
DC21	243,080	3.15%
NDC7	104,247	1.35%
DC22	103,654	1.34%
DC18	87,837	1.14%
NLM	58,686	0.76%

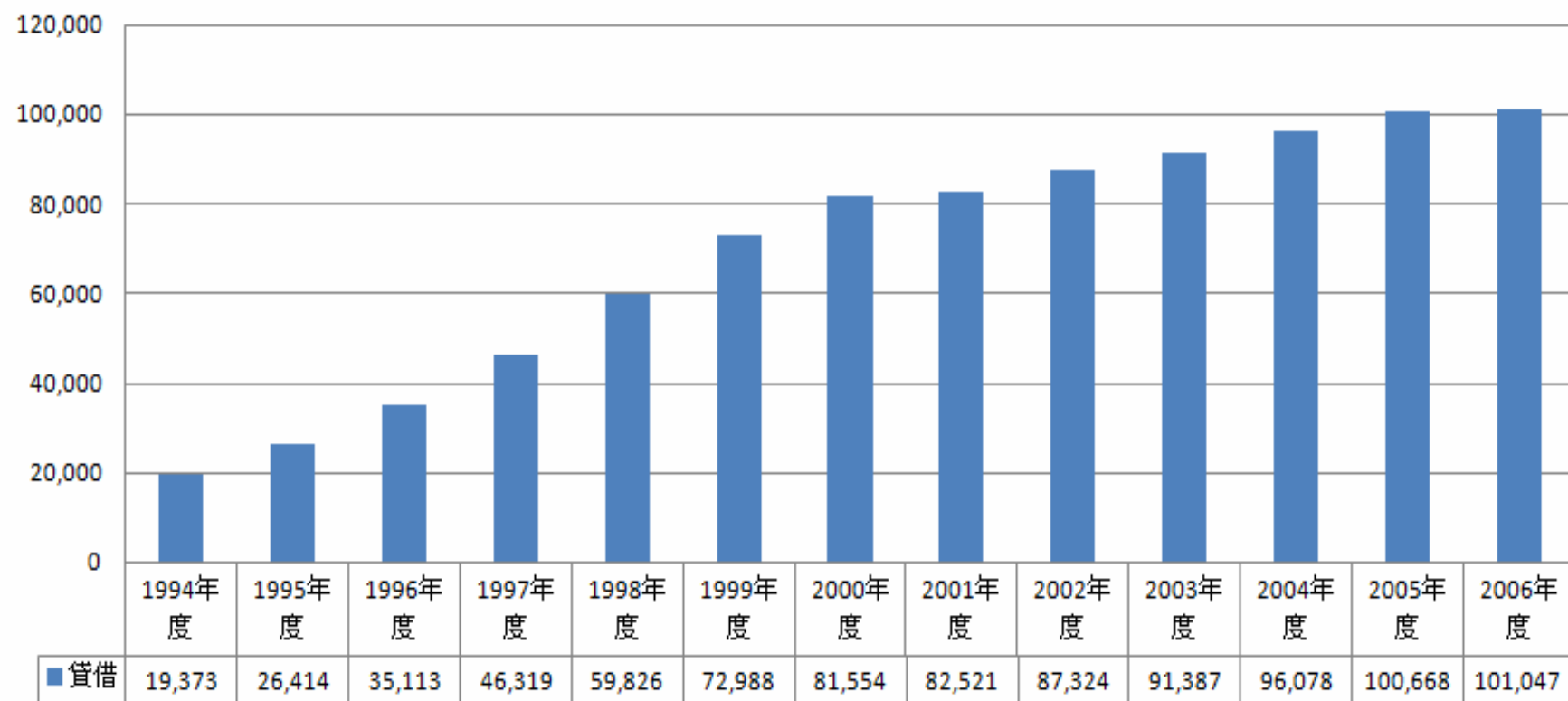
## 1995年以降

CLSあり	1,308,178	63.89%
CLSフィールド数	2,436,419	
NDC9	613,057	25.16%
NDC8	544,671	22.36%
LCC	476,168	19.54%
DC21	237,266	9.74%
NDLC	198,651	8.15%
DC20	120,207	4.93%
DC22	103,283	4.24%
NLM	29,478	1.21%
NDC7	23,043	0.95%
DC	16,414	0.67%
DC19	16,155	0.66%
SG	14,222	0.58%
SG86	9,445	0.39%



## 4. ILL現物貸借と 総合目録データベース

## 現物貸借件数(完了分)



# 2006年度受付件数上位の機関

1	京都大学	3,236	国立大学
2	神戸大学	2,805	国立大学
3	北海道大学	2,539	国立大学
4	名古屋大学	2,374	国立大学
5	北海道教育大学	2,198	国立大学
6	東京大学	2,108	国立大学
7	九州大学	1,789	国立大学
8	NDL	1,501	その他
9	日本大学	1,491	私立大学
10	広島大学	1,450	国立大学
11	東北大学	1,352	国立大学
12	新潟大学	1,305	国立大学
13	明治大学	1,290	私立大学
14	慶應義塾大学	1,274	私立大学
15	一橋大学	1,266	国立大学
16	東海大学	1,176	私立大学
17	明治学院大学	1,159	私立大学
18	大阪教育大学	1,151	国立大学
19	千葉大学	1,089	国立大学
20	愛知大学	1,009	私立大学

# 現物貸借レコードの特徴

1. リクエストのほとんどは人文社会系
2. 日本語資料の比率は約5割（48.9%；2006年度）
3. 特定年代への偏りは見られない（1949以前 9.3%, 1950～1979 23.1%, 1980s 17.7%, 1990s 26.7%, 2000～ 23.3%）

## 4. 少数タイトルへの集中は見られない

- 2002年度～06年度の延べ件数 476,496件
- " 異なりタイトル数 350,465件
- 処理件数／異なりタイトル数 1.36
  - ・ 5年度通算の最大頻度 72
  - ・ 出現回数1回のタイトルが、58.14%を占める

いわゆる“ロングテール”現象



# 現物貸借と所蔵の関係

1. 参加機関の受付件数と当該機関の所蔵登録レコード件数には強い相関（大学と共同利用機関に限定して計算； 2006年度）

相関係数 0.865

2. タイトル単位の依頼件数とそのタイトルの総所蔵件数にはほとんど相関がない（2006年度）

相関係数 0.066

⇒ 所蔵よりも『書誌』の種類数が重要

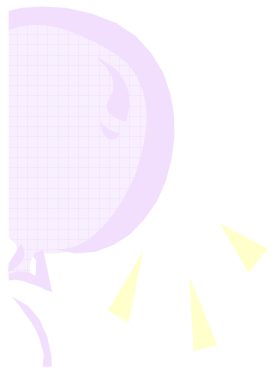




## Ⅱ. NACSIS-CATのこれから



### 1. 現状の認識





# 大学図書館の環境の変化

1. 電子情報資源の拡大とそれに伴う情報の「粒度」の変化
2. 電子的情報資源の量的、質的両面での目録記述の困難さ
3. 電子情報資源間のリンク可能性の増大
4. 利用者行動スタイル(ワークフロー)の変化
5. 結果としての図書館システムの複雑化(断片化)
6. 参加機関における経営合理化の要請と業務の多様化への対応体制

# 1. 電子情報資源の拡大とそれに伴う情報の「粒度」の変化

- ライセンス資料
  - 電子ジャーナル、電子ブック(ebook)
- ボーンデジタルおよびデジタル化されたWeb上の情報資源
- 粒度 (granularity) 問題
  - 「図書」「雑誌」という容れものから、
  - 1論文、1章という構成単位を含む範囲への拡大

## 2. 電子的情報資源の量的、質的両面での目録記述の困難さ

### • 質的困難

– 電子情報資源のタイトルはどこからとるのか？

– アクセス情報の固定

- 一元的、永続的な識別子(の保証)
- 情報源の識別と同定
- タイムスパン

### • 量的困難

– 電子情報資源に対するメタデータ作成

- 量に対応できる、効率的な方法が不可欠

### 3. 電子情報資源間のリンク可能性の増大

- 探索可能性 (findability) から発見可能性 (discoverability) へ
- 検索エンジンの全文検索機能と電子情報資源間の動的リンク
  - 電子情報資源 (本文) そのものが一つのアクセスツールへ
    - (しかし、検索エンジンも結構あやしい、、、)

## 4. 利用者行動スタイル(ワークフロー)の変化

- 二次情報データベース、電子ジャーナルの普及
  - 「図書館で探す」→「ブラウザ上ですべてを手に入れる」(発見、所在確認、入手、利用(記録))
  - リンクリゾルバの重要性
  - 電子情報資源への参照管理(共有)機能

従来: 利用者が図書館サービスに合わせてワークフローを構築  
現在: 図書館が利用対象者のワークフローに合わせてサービスを構築すべき

Lorcan Dempsey's weblog - 2008.5.31, "Workflow is an intermediate consumer." <http://orweblog.oclc.org/>

## 5. 結果としての図書館システムの複雑化 (断片化)

- 従来からの物理的形態のコレクション
    - 「図書館システム」
  - ライセンス契約によるコレクション
    - ERMS(電子情報資源管理システム)
  - デジタルな(ボーン・デジタルまたはデジタル化された)コレクション
    - 機関リポジトリ、分野別リポジトリ、CMS/LMS/VLE、、、
- ⇒ 統合的検索環境(Federated or Meta Search)の必要性
- ※限定的な市場 ⇒ オープンソースの図書館システム



# 多様なメタ・データの活用の模索



## 1. 専門家による「知識の組織化」

- 目録規則

- 分類、件名

- より精緻な構造化 (FRBR、FRAD、、、) そして、  
【目録規則の改訂】RDA

+ 内容紹介、著者紹介、表紙のイメージ、なか見！  
検索 (amazon)





# 多様なメタ・データの活用の模索

## 2. 利用者の貢献に基づく付加

- 例) タクソノミー／フォークソノミー、タギング、レビュー、リコメンデーション、アノテーション、レーティング、その他



## 3. プログラムによる付加

- 例) パターンや関係の解析に基づく、関連資料の同定、クラスタリング、自動分類、ランキング



## 4. 利用データに基づく付加

- 例) 利用ログ(利用、選択の実績)をもとにしたランキング

## 6. 参加機関における経営合理化の要請と業務の多様化への対応体制

- 経営合理化の要請と人員削減またはアウトソーシング
- 業務の多様化
  - 特に、新たな情報資源への対応
- さらなる効率化を求める意見

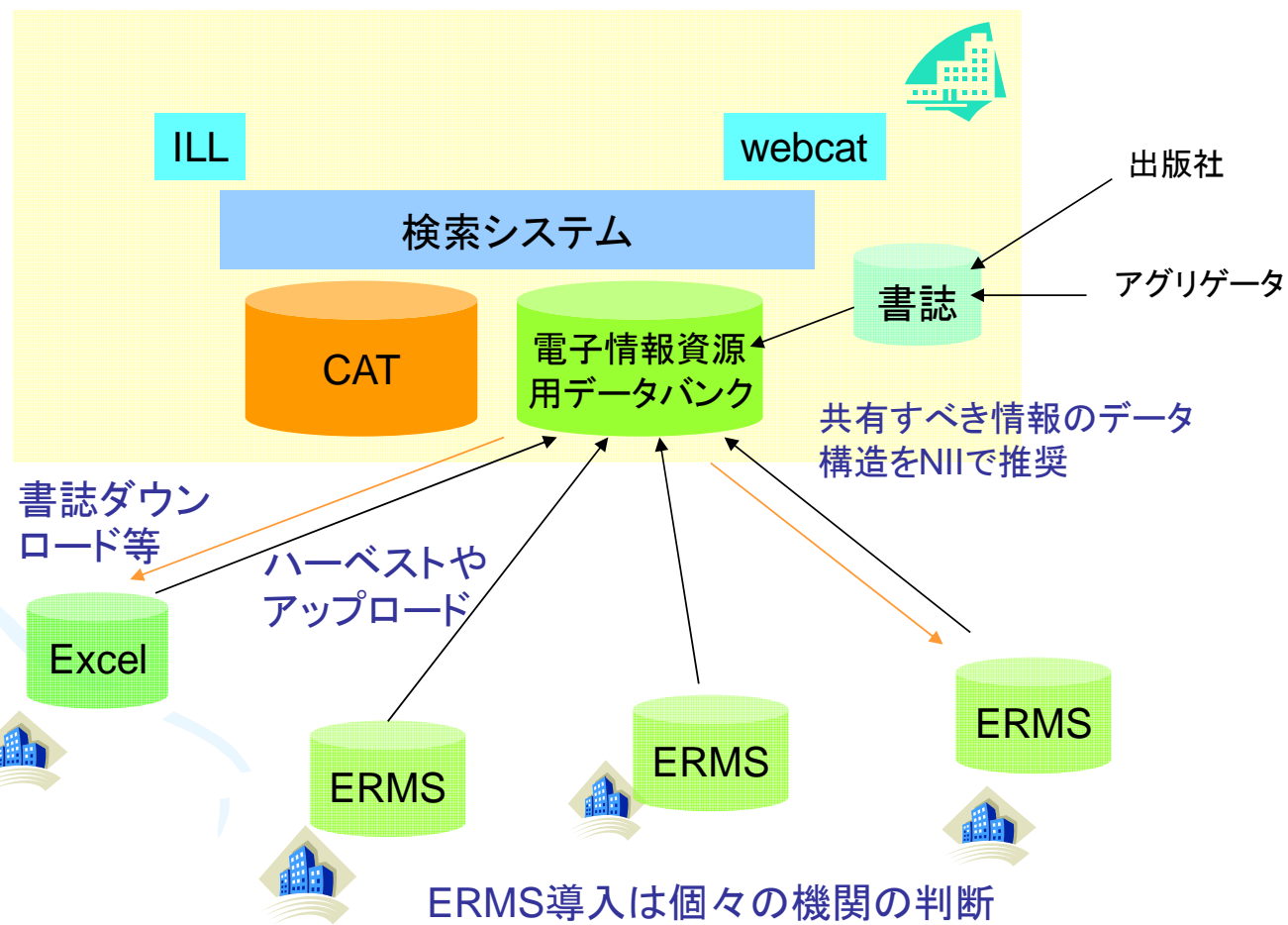
※一方での「目録品質の維持」という命題



## Ⅱ. NACSIS-CATのこれから

### 2. 具体的方策(検討中)

# 電子情報資源管理のモデル(案)[p.8]





# FRBR (RDA) 対応

- 特にデジタル情報資源よる情報量(検索結果)の増大への対応

- 整理された状態を検索利用者に提供

- 
- 目録規則の整備

- NCR (???)

- 
- システム面での整備

- FRBRization



# データ公開

- 検索エンジンとの連携

- OCLC

- Google Book Search と OCLCの連携  
(2008.5)

- GBSからのWorldCatの書誌レコードの利用
    - WorldCatの既存レコードからGBS(の表紙ページ)へのリンク
    - OCLCは既存レコードからGBSでデジタル化されたコンテンツのためのMARCLレコードを作成(未収録の場合には新規作成)

- API公開







# 川上方式(発生源入力)の 可能性追求

- 「発生源入力」により入力作業の軽減
  - 出版社、商業MARC作成機関によって作成される書誌情報を今以上に活用することにより、重複作業をなくす
- 人力によらず質の向上を計る
  - 全国書誌作成機関による質の高い目録の成果を効率よく取り込むことにより、主題アクセス、著者名典拠コントロールの質の向上を期待



# 合理的な運営に向けて

- オリジナル目録作成は今後も不可欠
    - 大学図書館は目録作成の責任を放棄してはいけない
  - 1,000以上のNACSIS-CAT参加館全体で書誌調整を行うことの非合理性
    - 書誌調整をなるべく発生しないようにするしかない
    - 「参加館の二極化」という現状
- 
- 





# 合理的な運営に向けて

- 「目録センター館」構想：オリジナル目録作業を行う図書館の集中化
  - 目録の質の維持
  - メタデータの実務的な運用スキルを持つ図書館員養成の場を持つ必要性
- インセンティブモデルの導入
  - 書誌新規作成への貢献度をベースに何らかの見返り／負担
- 参加機関のレベル分け
  - すべての館が書誌調整に参加する必要はない